

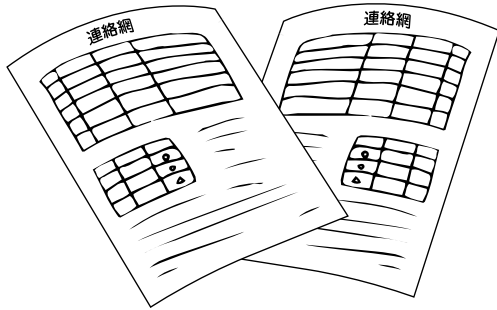
教育部門



(山野議員)

Q 小中学校の連絡網について問う。

A 緊急連絡のための手段として、適正な扱いをお願いしている。
(加藤教育部長)



適正な管理が求められる

Q 最近の個人情報保護のためか、クラスでの連絡網の作り方が各学校で異なっているが、この状況をどう考えるか。防犯の連絡や、友達との交流等に必要と思うが、どんな対応になっているのか。何か問題があったのか。

A 半数の学校では、自分の所属する列の番号のみが記載された連絡網を使用している。個人情報保護の観点から、連絡網の扱いには注意をお願いしており、連絡網は緊急連絡の手段という認識の元、友達との交流においても、各学級で連帯感の醸成など様々な方法がとられている。各学校で作りは異なっているが、個人情報保護を慎重に扱う認識が定着するならば、問題はないと考えている。



(大瀬戸議員)

Q 中学校に給食の導入を。

A 「弁当」が最良の教材と考えており、導入は考えていない。
(西原教育長)

Q 現在、2つの中学校(熊野中、熊野東中)には給食がないが、今後小学校のような形でも給食を導入できないか。

A 平成15年秋にアンケート調査をした結果、中学生(小6を含む)の希望者は25%であり、同年春の親子で相談の上での回答では40%という結果から、導入を見合わせた経緯がある。また、全国的に食育が推進されているが、学校現場だけではその啓発が非常に困難な時代になっている。こうした状況から、思春期に大切な親子・家族の絆を強くする「弁当」が最適と考えている。最近の実態調査でも、パン等の購入は1〜2%台に留まっており、殆どが弁当を持参している。